

令和7年度 再評価実施後5年経過した事業箇所の再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	防災・安全交付金（海岸侵食対策事業）
事業箇所	新潟市～北蒲原郡聖籠町地内	港湾・地区名	新潟港 東・松浜・聖籠海岸地区

1 事業の概要

① 事業の目的・効果・必要性等 新潟港海岸は、東港区のある聖籠町網代浜から阿賀野川・新潟空港を経て、新潟市の中心地である信濃川河口部に位置する西港区を含んだ海岸区域である。当海岸は、明治以降に始まる治山・治水事業により河川からの供給土砂量が減少したことに始まり、その後の港湾整備による沿岸漂砂の変化、冬季風浪により著しく汀線が後退している。そのため各地区で侵食対策のための施設整備を行う必要がある。 [東海岸地区] 侵食防止と砂浜復元を目的に、昭和32年度から侵食対策事業を行ってきたが、施設の老朽化や度重なる冬季風浪による被災などの対策として、平成2年度から平成11年度まで、堤防改良や離岸堤の整備を行っている。 [松浜海岸地区] 南浜地区整備に伴い、松浜海岸地区の侵食が予想されるため、昭和61年度から突堤や離岸堤の整備を行っている。 [聖籠海岸地区] 侵食防止と砂浜復元を目的に、平成2年度から突堤の整備を行っている。															
② 事業内容 [東海岸地区] 離岸堤（潜堤） 1,380m 堤防（改良） 416m 離岸堤（補強工） 140m（完了） [松浜海岸地区] 突堤 4基（完了） 離岸堤 1,784m [聖籠海岸地区] 突堤 4基	③ 残事業内容 [東海岸地区] 離岸堤（潜堤） 920m 堤防（改良） 166m [松浜海岸地区] 離岸堤 658m [聖籠海岸地区] 突堤 1基（施工中）														
④ 総事業費 365.8億円[332.5億円]	⑦ 進捗率（事業費ベース） 67.3%（=246.1/365.8）														
⑤ 執行済事業費 246.1億円[238.2億円]	⑧ 現在の費用対効果(B/C) [基準年 R7年] 事業全体：B/C=15.5（=17,816.6/1,147.9） 残事業：B/C=49.1（=5,888.9/119.7）														
⑥ R7年度以降残事業費 119.7億円[94.3億円]	⑨ 前回の費用対効果(B/C) [基準年 R2年] B/C=11.6（=9,360.4/809.5）														
⑩ 便益(B)の内訳 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">浸水防護の便益</td> <td style="text-align: right;">17,417.9億円 [9,060.1億円]</td> </tr> <tr> <td>侵食防止の便益</td> <td style="text-align: right;">249.6億円 [209.2億円]</td> </tr> <tr> <td>飛砂飛沫防護の便益</td> <td style="text-align: right;">149.0億円 [91.0億円]</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">17,816.6億円 [9,360.4億円]</td> </tr> </table>	浸水防護の便益	17,417.9億円 [9,060.1億円]	侵食防止の便益	249.6億円 [209.2億円]	飛砂飛沫防護の便益	149.0億円 [91.0億円]	合計	17,816.6億円 [9,360.4億円]	⑪ 費用(C)の内訳 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">建設の費用</td> <td style="text-align: right;">1,120.2億円 [784.8億円]</td> </tr> <tr> <td>維持管理の費用</td> <td style="text-align: right;">27.7億円 [24.7億円]</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">1,147.9億円 [809.5億円]</td> </tr> </table>	建設の費用	1,120.2億円 [784.8億円]	維持管理の費用	27.7億円 [24.7億円]	合計	1,147.9億円 [809.5億円]
浸水防護の便益	17,417.9億円 [9,060.1億円]														
侵食防止の便益	249.6億円 [209.2億円]														
飛砂飛沫防護の便益	149.0億円 [91.0億円]														
合計	17,816.6億円 [9,360.4億円]														
建設の費用	1,120.2億円 [784.8億円]														
維持管理の費用	27.7億円 [24.7億円]														
合計	1,147.9億円 [809.5億円]														

※ ④～⑥、⑩、⑪の[]内は前回再評価時の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費（下水道事業は更新費用も含む）を加え、その金額を現在価値化したもの

2 評価の視点

⑫事業の進捗が遅れている理由（前回評価時からの変化、遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載）
施工途中の局所的な洗掘対策の検討に時間を要したことに加え、資材価格や労務費の高騰のため、工事計画を見直し工期を延伸する結果となった。

⑬事業を継続することにより発揮される効果（前回評価時からの変化についても記載）
波浪による海岸侵食、背後地の浸水及び飛沫被害に対し、整備を行った箇所では汀線の後退が抑えられていることから、順次効果が上がっている。

⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果
海岸侵食対策事業区域には、島見浜海水浴場（松浜海岸）及び網代浜海水浴場（聖籠海岸）が含まれており、突堤の整備により回復した砂浜に、海水浴客が訪れている。

⑮社会経済情勢の変化（前回評価時からの変化についても記載）
・近年異常気象による災害が頻発していることから、海岸侵食や背後地の浸水被害を防止する対策の必要性、重要性が高まっている。

⑯B/Cの変化の要因（前回評価時から需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）
・便益(B)
治水経済調査マニュアル(案)各種資産評価単価及びデフレーターの見直しにより資産評価額が増加し、それに伴い各種便益額が増加した。
また、浸水防護便益では、地盤高データ（国土地理院の数値情報）の更新があり、前回評価時から全体的に地盤が20cm程度低くなったため、浸水範囲の拡大かつ浸水被害を受ける資産への被害率が大きくなったことから、大幅に便益が増加した。
・費用(C)
人件費や原料価格の上昇等により事業費が増加した。

⑰コスト縮減、代替案の可能性（前回評価時からの変化についても記載）
・離岸堤の消波ブロック等（種類・重量）について、経済比較を行い、今後も引き続きコスト縮減を図っていく。

⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況等（前回評価時からの変化についても記載）
聖籠地区海岸背後に海岸利用者のための、駐車場や東屋、交流施設が整備されている。
「聖籠夏まつり」での海上花火等のイベントも例年開催されており、当事業による砂浜の侵食防止に対する地元の期待は高い。

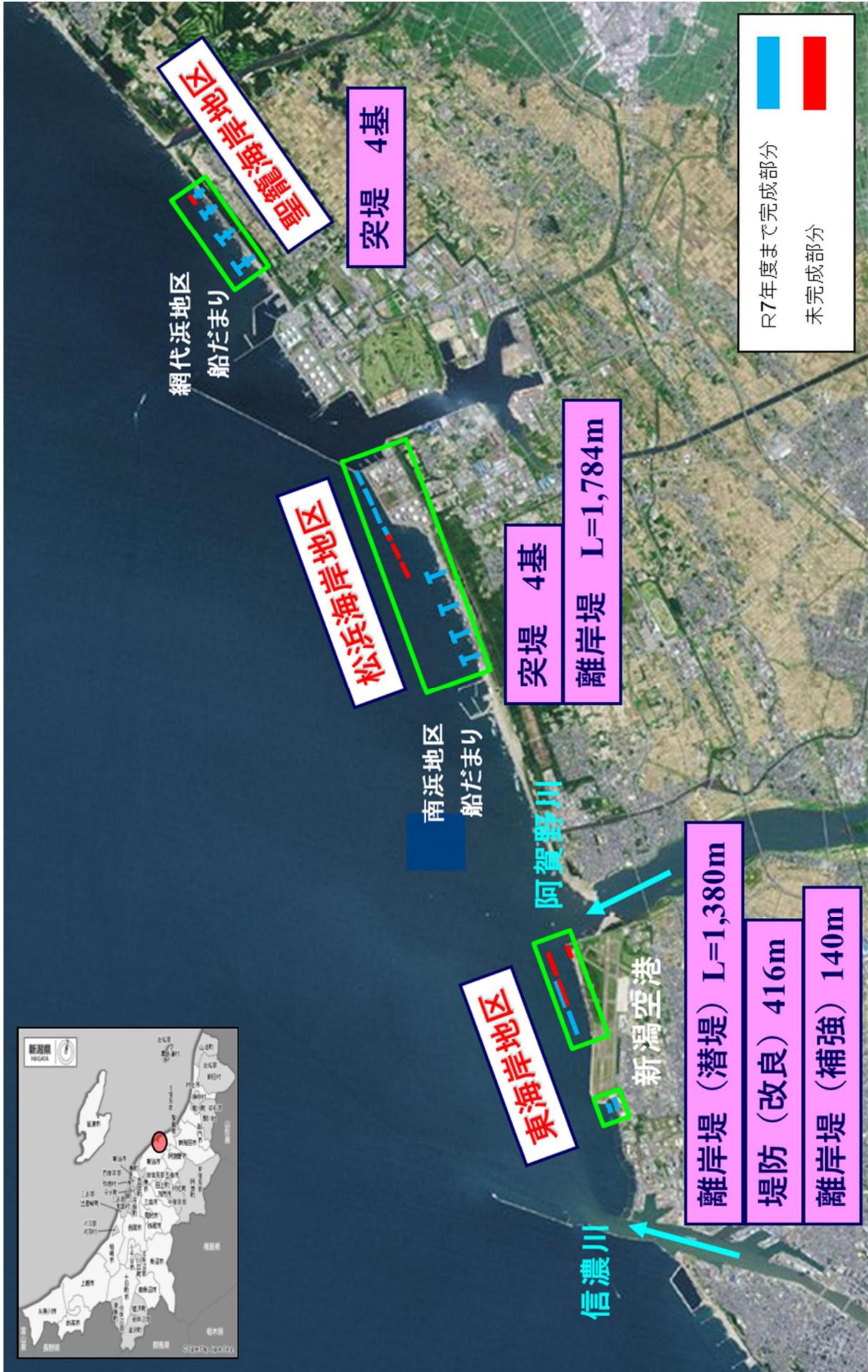
3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

整備を行った箇所では汀線の後退が抑えられていることから、順次効果が上がっているが、引き続き砂浜の状況を注視しながら整備を進めていき、令和15年度完了を目指す。

4 経緯

区 分	再評価 (H17)	再評価 (H22)	再評価 (H27)
工 期	S61～H30	S61～H35	S61～H40
総事業費	332.5億円	332.5億円	332.5億円
事業内容	突堤工 N=8基 堤防 (改良) L=416m 離岸堤 (潜堤含む) L=3,164m 離岸堤 (補強工) L=140m	突堤工 N=8基 堤防 (改良) L=416m 離岸堤 (潜堤含む) L=3,164m 離岸堤 (補強工) L=140m	突堤工 N=8基 堤防 (改良) L=416m 離岸堤 (潜堤含む) L=3,164m 離岸堤 (補強工) L=140m
費用対効果 (B/C)	B/C=4.0 (1,729.3/393.6)	B/C=2.4 (1,165.4/487.0)	B/C=7.5 (=4,576.8/606.5)

区 分	再評価 (R2)	再評価 (R7)
工 期	S61～R10	S61～R15
総事業費	332.5億円	365.8億円
事業内容	突堤工 N=8基 堤防 (改良) L=416m 離岸堤 (潜堤含む) L=3,164m 離岸堤 (補強工) L=140m	突堤工 N=8基 堤防 (改良) L=416m 離岸堤 (潜堤含む) L=3,164m 離岸堤 (補強工) L=140m
費用対効果 (B/C)	B/C=11.6 (=9,360.4/809.5)	B/C=15.5 (17,816.6/1,147.9)



令和7年度 再評価実施後5年経過した事業箇所の再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	港湾改修事業
事業箇所	糸魚川市寺島地内	港湾・地区名	姫川港 西、東ふ頭地区

1 事業の概要

①事業の目的・効果・必要性等 <解決すべき課題・背景> 姫川港は新潟県西南部に位置し、周辺地域で産出される良質な石灰石を利用したセメント工業、化学工業とともに発展している。 また、地方港湾では唯一の総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）であり、糸魚川経済圏の物流拠点であるため、既存の係留施設では貨物船の沖待ちが発生している。 このような背景から、本事業は、西ふ頭地区において増加する取扱貨物や船舶の大型化に対応するための物流ターミナルと、港内船舶の混雑解消のために東ふ頭第2小型船だまりを整備する事業である。																													
②事業内容 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>・防波堤（西）</td><td style="text-align: right;">L= 140m（完了）</td></tr> <tr><td>・護岸（防波）</td><td style="text-align: right;">L= 530m（完了）</td></tr> <tr><td>・岸壁（-10m）</td><td style="text-align: right;">L= 170m（完了）</td></tr> <tr><td>・泊地（-10m, -11m）</td><td style="text-align: right;">V=612,000m³</td></tr> <tr><td>・道路（西ふ頭）</td><td style="text-align: right;">L= 500m</td></tr> <tr><td>・岸壁（-11m）</td><td style="text-align: right;">L= 190m</td></tr> <tr><td>・小型船だまり</td><td style="text-align: right;">N= 1式</td></tr> <tr><td>・ふ頭用地</td><td style="text-align: right;">A= 5.9ha</td></tr> </table>	・防波堤（西）	L= 140m（完了）	・護岸（防波）	L= 530m（完了）	・岸壁（-10m）	L= 170m（完了）	・泊地（-10m, -11m）	V=612,000m ³	・道路（西ふ頭）	L= 500m	・岸壁（-11m）	L= 190m	・小型船だまり	N= 1式	・ふ頭用地	A= 5.9ha	③残事業内容 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>・泊地（-11m）</td><td style="text-align: right;">V=200,000m³</td></tr> <tr><td>・道路（西ふ頭）</td><td style="text-align: right;">L= 220m</td></tr> <tr><td>・岸壁（-11m）</td><td style="text-align: right;">L= 190m</td></tr> <tr><td>・小型船だまり</td><td style="text-align: right;">N= 1式</td></tr> <tr><td>・ふ頭用地</td><td style="text-align: right;">A= 5.9ha</td></tr> </table>	・泊地（-11m）	V=200,000m ³	・道路（西ふ頭）	L= 220m	・岸壁（-11m）	L= 190m	・小型船だまり	N= 1式	・ふ頭用地	A= 5.9ha		
・防波堤（西）	L= 140m（完了）																												
・護岸（防波）	L= 530m（完了）																												
・岸壁（-10m）	L= 170m（完了）																												
・泊地（-10m, -11m）	V=612,000m ³																												
・道路（西ふ頭）	L= 500m																												
・岸壁（-11m）	L= 190m																												
・小型船だまり	N= 1式																												
・ふ頭用地	A= 5.9ha																												
・泊地（-11m）	V=200,000m ³																												
・道路（西ふ頭）	L= 220m																												
・岸壁（-11m）	L= 190m																												
・小型船だまり	N= 1式																												
・ふ頭用地	A= 5.9ha																												
④総事業費 364.0億円 [319.5億円]	⑦進捗率（事業費ベース） 82.3% (= 299.6/364.0)																												
⑤執行済事業費 299.6億円 [241.5億円]	⑧現在の費用対効果(B/C) [基準年 R7年] 事業全体 : B/C=1.1 (794.1/702.9) 残事業 : B/C=8.7 (509.8/58.3)																												
⑥R7年度以降残事業費 64.4億円 [78.0億円]	⑨前回の費用対効果(B/C) [基準年 R2年] B/C=1.1 (537.9/473.7)																												
⑩便益の内訳 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>陸上輸送コスト削減便益</td><td style="text-align: right;">524.1億円</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: right;">[367.3億円]</td></tr> <tr><td>海上輸送コスト削減便益</td><td style="text-align: right;">178.6億円</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: right;">[80.8億円]</td></tr> <tr><td>その他の便益</td><td style="text-align: right;">91.1億円</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: right;">[89.8億円]</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">794.1億円</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: right;">[537.9億円]</td></tr> </table>	陸上輸送コスト削減便益	524.1億円		[367.3億円]	海上輸送コスト削減便益	178.6億円		[80.8億円]	その他の便益	91.1億円		[89.8億円]	合計	794.1億円		[537.9億円]	⑪費用の内訳 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建設費用</td><td style="text-align: right;">701.1億円</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: right;">[472.0億円]</td></tr> <tr><td>維持管理費用</td><td style="text-align: right;">1.8億円</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: right;">[1.7億円]</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">702.9億円</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: right;">[473.7億円]</td></tr> </table>	建設費用	701.1億円		[472.0億円]	維持管理費用	1.8億円		[1.7億円]	合計	702.9億円		[473.7億円]
陸上輸送コスト削減便益	524.1億円																												
	[367.3億円]																												
海上輸送コスト削減便益	178.6億円																												
	[80.8億円]																												
その他の便益	91.1億円																												
	[89.8億円]																												
合計	794.1億円																												
	[537.9億円]																												
建設費用	701.1億円																												
	[472.0億円]																												
維持管理費用	1.8億円																												
	[1.7億円]																												
合計	702.9億円																												
	[473.7億円]																												

※ ④～⑥、⑩、⑪の[]内は前回再評価時の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費（下水道事業は更新費用も含む）を加え、その金額を現在価値化したもの

2 評価の視点

<p>⑫事業の進捗が遅れている理由（前回評価時からの変化、遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載）</p> <p>泊地の掘削および岸壁施工に係る土質条件の変化に対応する必要が生じたことに加え、資材価格や労務費の更なる高騰のため、当初計画より工期が令和8年から12年に延伸する結果となった。</p>
<p>⑬事業を継続することにより発揮される効果（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>本事業の実施により船舶の大型化が可能となるとともに、港内船泊の混雑が解消されることで大幅な荷役の効率化と輸送コストの縮減が図られる。</p> <p>また、曳船や作業船等の小型船の利用に対応した水域機能の向上を図ることで、小型船利用の効率化を推進する。</p>
<p>⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果</p> <ul style="list-style-type: none">・貨物の輸送効率化により、CO2やNOx等の排出ガス削減が見込まれる。・荷役の効率化など背後の荷主等事業者の物流機能の高度化、効率化が促進され、地域産業の競争力の向上が図られる。
<p>⑮社会経済情勢の変化（前回評価時からの変化についても記載）</p> <ul style="list-style-type: none">・令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により、サプライチェーンの混乱や労働力不足、工期の長期化が顕在化した。・ウクライナ情勢の影響による燃料・原材料価格の高騰や調達先の変更を余儀なくされ、物流コストも上昇した。・脱炭素化の要請が強まり、バイオマス燃料利用等、環境対応の検討が進展している。
<p>⑯B/Cの変化の要因（前回評価時から需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）</p> <ul style="list-style-type: none">・便益（B） 貨物需要の変動や新規貨物の増加等による便益が増加した。・費用（C） 人件費や原料価格の上昇等により事業費が増加した。
<p>⑰コスト縮減、代替案の可能性（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>西ふ頭地区岸壁、東ふ頭地区小型船だまりについては、施工計画の見直し等の検討により、一層の建設コスト縮減を図っていく。</p>
<p>⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況等（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>港湾利用者からは、船舶の大型化に対応する岸壁整備や小型船だまり整備への要請があり、事業の早期完成が望まれている。</p>

3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

本事業により、姫川港を利用する地域産業の国際競争力強化につながるとともに、港湾利用の効率化が期待できる。

港湾利用者からも早期の整備を求められていることから事業を継続することとしたい。

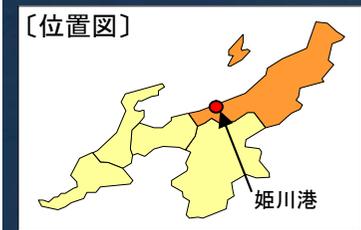
4 経緯

区分	再評価(H19)		再評価(H24)		再評価(H27)		再評価(R2)		再評価(R7)	
工期	H10～H26		H10～H28		H10～R6		H10～R8		H10～R12	
総事業費	223億円		204億円		273億円		320億円		364億円	
事業内容	防波堤(西)	140m								
	護岸(防波)	530m								
	岸壁(-10m)	340m	岸壁(-10m)	170m	岸壁(-10m)	170m	岸壁(-10m)	170m	岸壁(-10m)	170m
	泊地(-10m)		泊地(-10m)		泊地(-10m,-11m)		泊地(-10m,-11m)		泊地(-10m,-11m)	
		302,000m ³		412,000m ³		612,000m ³		612,000m ³		612,000m ³
	道路(西ふ頭)	740m	道路(西ふ頭)	500m	道路(西ふ頭)	500m	道路(西ふ頭)	500m	道路(西ふ頭)	500m
					岸壁(-11m)	190m	岸壁(-11m)	190m	岸壁(-11m)	190m
					小型船だまり	1式	小型船だまり	1式	小型船だまり	1式
ふ頭用地	4.8ha	ふ頭用地	2.4ha	ふ頭用地	3.4ha	ふ頭用地	3.4ha	ふ頭用地	5.9ha	
物揚場(-4m)	160m									
費用対効果 (B/C)	B/C=1.5 (=300.2/206.3)		B/C=1.1 (=271.6/236.5)		B/C=1.1 (=375.2/329.8)		B/C=1.1 (=537.9/473.7)		B/C=1.1 (=794.1/702.9)	

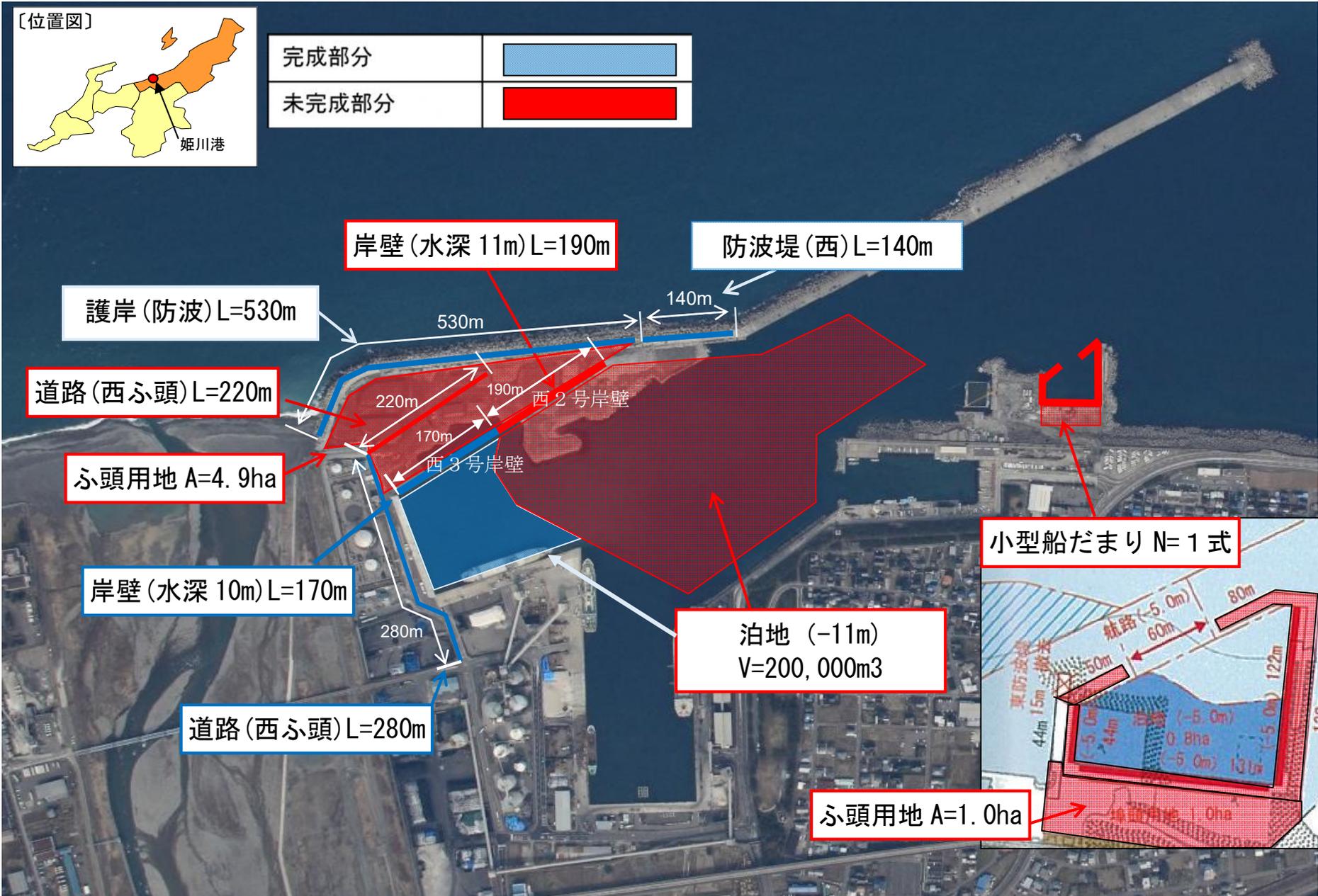
【参考】

区分	再評価(H19)		再評価(H24)		再評価(H27)		再評価(R2)		再評価(R7)	
便益の詳細										
陸上輸送 コスト削減	235.3億円		226.1億円		276.7億円		367.3億円		524.1億円	
海上輸送 コスト削減	—		—		28.8億円		80.8億円		178.6億円	
その他	64.9億円		45.4億円		69.7億円		89.8億円		91.1億円	
備考			<ul style="list-style-type: none"> 岸壁延長を減したことにより工事費減。 国内セメント需要減少により、便益減 	<ul style="list-style-type: none"> 岸壁(-11m)及び小型船だまりを追加したことにより工事費及び便益増。 	<ul style="list-style-type: none"> 浚渫単価増及びケーソン製作港の変更により工事費増。 東南アジアへのセメント輸出増により便益増。 	<ul style="list-style-type: none"> 原料価格上昇や設計変更等による事業費増加 原単位見直しによる便益増加 代替港設定の見直し等による便益が増加 				

姫川港西ふ頭地区物流ターミナル・東ふ頭地区小型船だまりプロジェクト



完成部分	
未完成部分	



令和7年度 再評価実施後5年経過した事業箇所の再評価項目表

事業主体	新潟県	事業名	防災・安全交付金（海岸侵食対策事業）
事業箇所	糸魚川市大字青海～寺地地内	港湾・地区名	姫川港 青海・寺地地区

1 事業の概要

<p>① 事業の目的・効果・必要性等</p> <p>本地区は、冬季風浪により幾度も砂浜の侵食や越波による浸水被害を受けており、護岸及び離岸堤整備による侵食及び越波対策を図ってきた。</p> <p>しかし、離岸堤の整備後も全般的に侵食状況にあることから、早急な対策が求められたため、平成2年度から侵食及び越波対策を目的として、沖側に面的防護方式による海岸保全施設整備を進めている。</p> <p>なお、海岸直背後には民家・公営住宅が集中していることから、侵食及び越波対策に加え、まちづくりに配慮した整備にも取り組んでいる。</p>	
<p>② 事業内容</p> <p>離岸堤（潜堤） L=1,365m（5.0基）</p> <p>護岸（改良）</p> <p style="padding-left: 20px;">緩傾斜護岸 L=1,648m（完了）</p> <p style="padding-left: 20px;">飛沫防止帯 L=1,648m</p>	<p>③ 残事業内容</p> <p>離岸堤（潜堤） L=60.4m（0.2基）</p> <p>護岸（改良）</p> <p style="padding-left: 20px;">飛沫防止帯 L=357m</p>
<p>④ 総事業費</p> <p>183.2億円[179.9億円]</p>	<p>⑦ 進捗率（事業費ベース）</p> <p>91.3%（=167.3/183.2）</p>
<p>⑤ 執行済事業費</p> <p>167.3億円[164.3億円]</p>	<p>⑧ 現在の費用対効果(B/C)〔基準年 R7年〕</p> <p>事業全体： B/C=2.4（1,439.1/609.6）</p> <p>残事業： B/C=3.1（39.9/12.7）</p>
<p>⑥ R7年度以降残事業費</p> <p>15.9億円[15.6億円]</p>	<p>⑨ 前回の費用対効果(B/C)〔基準年 R2年〕</p> <p>B/C=2.8（1,207.5/431.9）</p>
<p>⑩ 便益の内訳（割引後）</p> <p>浸水防護便益 1,358.3億円[1,121.1億円]</p> <p>侵食防止便益 24.3億円 [20.9億円]</p> <p>飛砂・飛沫防護便益 56.5億円[65.5億円]</p> <p>合 計 1,439.1億円[1,207.5億円]</p>	<p>⑪ 費用の内訳（割引後）</p> <p>建設費用 609.3億円[431.7億円]</p> <p>維持管理費用 0.2億円[0.2億円]</p> <p>合 計 609.6億円[431.9億円]</p>

※ ④～⑥、⑩、⑪の[]内は前回再評価時の数値

※ 総事業費：事業に必要な調査設計費、用地買収費、工事費、事務的経費等の総額

※ 総費用：総事業費に維持管理費（下水道事業は更新費用も含む）を加え、その金額を現在価値化したもの

2 評価の視点

<p>⑫事業の進捗が遅れている理由（前回評価時からの変化、遅れを取り戻す工夫や取組状況も併せて記載）</p> <p>ブロックのストックが可能なヤードの確保が難しくなり、代替ヤードの調整に時間を要し、事業の進捗が遅れた。</p> <p>別途ヤード確保の見込みがついたことから、今後発注時期の工夫により進捗を図るよう努める。</p>
<p>⑬事業を継続することにより発揮される効果（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>離岸堤（潜堤）整備が完了した区間では、砂浜の保全・維持を確認でき、越波による浸水被害も減少している。そのため、未整備区間についても地元住民から早期の完成を強く求められている。</p>
<p>⑭便益として貨幣換算していないが、事業により見込まれる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潜堤に漁礁のような効果もあり、魚介類の生息しやすい環境づくりに貢献している。 ・砂浜が維持されることにより、地元住民により「竹のからかい」「さいの神」等のイベントが盛大に実施されるようになった。整備の進捗に伴い、イベントによる有効的な海浜利用ができるようになった。
<p>⑮社会経済情勢の変化（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>北陸新幹線開業・敦賀延伸による交流人口の拡大効果によって、本海岸においても更なる海浜利用の活性化が期待される。</p>
<p>⑯B/Cの変化の要因（前回評価時から需要予測等の変化、全体事業費の変化要因について記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・便益（B） <p>治水経済調査マニュアル（案）各種資産評価単価及びデフレーターの見直しにより資産評価額が増加し、それに伴い各種便益額が増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用（C） <p>人件費や原料価格の上昇等により事業費が増加した。</p>
<p>⑰コスト縮減、代替案の可能性（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>離岸堤（潜堤）工事において既設構造物のブロックを有効活用することによりコスト縮減を図る。</p>
<p>⑱関係機関等の意向、関連事業と調整状況等（前回評価時からの変化についても記載）</p> <p>姫川港整備促進同盟会等から、事業進捗の要望が寄せられている。</p>

3 今後の実施方針（案） ※今後の見通しを併せて記載のこと

護岸（改良）の緩傾斜護岸の整備は完了しており、今後は 離岸堤（潜堤）に予算を重点投資していく。また、既設構造物のブロックを有効活用することによりコスト縮減を図り、離岸堤（潜堤）の工事を進捗させ、事業の早期完成を図る。

4 経緯

(1) 海岸侵食対策事業

区分	再評価(H17)	再評価(H22)	再評価(H27)	再評価(R2)	再評価(R7)
工期	H2～H25	H2～H28	H2～H33	H2～R8(H33)	H2～R12
総事業費	184.0億円	184.0億円	179.9億円	179.9億円	183.2億円
事業内容	離岸堤(潜堤) L=1,365m 護岸(改良) L=1,700m	離岸堤(潜堤) L=1,365m 護岸(改良) L=1,648m	離岸堤(潜堤) L=1,365m 護岸(改良) L=1,648m	離岸堤(潜堤) L=1,365m 護岸(改良) L=1,648m	離岸堤(潜堤) L=1,365m 護岸(改良) L=1,648m
費用対効果 (B/C)	B/C=7.0 (1,449.0/207.8)	B/C=4.0 (1,036.9/262.5)	B/C=2.6 (829.5/318.0)	B/C=2.8 (1,207.5/431.9)	B/C=2.4 (1,439.1/609.6)

